

平成 29 年度事業報告

本法人では、昭和 62 年 4 月の養和荘の開所以降、順次施設整備等を行い、平成 29 年度末現在で、12 か所の拠点において延べ 39 の事業に取り組んでいます。基本理念である「選ばれる事業所・親しまれる事業所」に基づき、社会福祉事業の主たる担い手として、安心・安全かつ適正なサービスを提供し、障害のある方がより安心して暮らせるよう、経営基盤の安定化、健全な法人運営に努めると共に、サービスの質や職員の資質の向上を図ってまいりました。

平成 29 年度の主な事業実績につきましては、以下のとおりです。

なお、各拠点別の事業報告明細書は、別添のとおりです。

1. 中期計画の推進

中期計画の上で平成 28 年度に整備予定であったはるひ荘については、国・県補助金の内示の遅れにより竣工が平成 29 年度にずれ込み、最終的に以下のとおりとなりました。

工 期 H28.9～H29.5

整備費 612,988,397 円(うち平成 29 年度分 108,324,917 円)

また、平成 30 年度の整備予定であるグループホーム王子について、理事会・評議員会において建設方針を決めると共に、基本設計を行いました。さらに、平成 31 年度以降の整備予定である養和荘厨房棟の改築についても、整備の前提となる厨房の運営方法等について、関係職員等で検討を開始しました。

2. 財政基盤の安定

入札等の適正な執行、食材・消耗品等の共同発注などコスト削減、業務の効率化を図り、資金収支の改善に努めました。平成 28・29 年度の養楽荘・はるひ荘等の事業開始により障害福祉サービス等事業収入が増加する一方で、若年の職員採用等で人件費が低く抑えられ、収支バランスは改善しております。しかしながら、今後も借入金の償還や中期計画に基づく新施設の整備予定があるところから、引き続き業務改善に取り組み財政基盤の安定に努めていきます。

3. 人材の確保・育成

平成 29 年 7 月開所のはるひ荘職員の確保など人材の確保に努めると共に、職員の定着化や職員研修の充実に努めました。

(1) 職員の計画的採用

ア. 採用状況

平成 29 年 4 月 2 日～平成 30 年 3 月 31 日採用 14 名(支援員 7 名、管理栄養士 2 名、調理員 3 名、事務員 2 名)

平成 30 年 4 月 1 日採用 21 名(支援員 17 名、事務員 1 名、看護師 1 名、栄養士 1 名、調理員 1 名)

イ. 正規職員登用試験結果

受験者数 4 名、合格者数 4 名(支援員 4 名)

ウ. 再雇用の状況

平成 30 年 4 月 1 日再雇用 4 名(支援員 4 名)

(2) 職員の定着化

平成 29 年度中退職者 21 名(定年 4 名、自己都合 17 名)

* 定年退職者のうち、3 名は正規職員として、1 名は短時間契約職員として再雇用。

(3) 職員研修の充実

ア. 新規採用職員研修(第 1 回 28 名、第 2 回 12 名)とフォローアップ研修(10 名)の実施

- イ. 知的障害援助専門員養成通信教育の受講 (5名)
- ウ. 新任副主任研修の実施 (11名)
- エ. 新任主任研修への参加 (県社協、2名)
- オ. 新任管理職員研修への参加 (県社協、1名)
- カ. 課題研修の実施 (14チーム、48名)
- キ. 日本知的障害者福祉協会・愛知県知的障害者福祉協会主催等の研修に参加

4. 会議等の開催

事業報告・収支決算や事業計画・収支予算等の審議及び理事長等の職務執行状況の報告のため、理事会を4回、評議員会を3回開催しました。

(1) 理事会

開催日	議 題
1 5月30日	【議題】①平成28年度事業報告及び収支決算、②平成29年度第1次収支補正予算、③定時評議員会の開催、④規程の改正(理事会運営規程、決裁規程、文書保存規程、役職員旅費規程、経理規程、資金運用規程、慶弔見舞金規程、福祉サービスに関する苦情解決規程)、⑤定款施行細則の廃止【報告事項】・理事長専決実績・社会貢献表彰・はるひ荘の備品購入に係る指名競争入札の結果
2 6月16日	【議題】①理事長の選定、②業務執行理事の選定、③苦情処理第三者委員の選任、④職員給与規程の改正、⑤職員就業規則の改正
3 11月8日	【議題】①平成29年度第2次収支補正予算、②グループホーム王子(仮称)の建設、③第2回評議員会の開催、④グループホーム王子(仮称)の建設に係る設計監理業者の選定、⑤職員就業規則の改正、⑥経理規程及び資金運用規程の改正、⑦資金運用責任者の選任及び平成29年度資金運用計画【報告事項】・職務執行状況・監事監査規程・中間監事監査の結果・短期入所サービス費の過大請求
4 3月7日	【議題】①規程等の改正(職員就業規則、職員等服務規程、契約職員等就業規則、懲戒手続規程、職員給与規程、契約職員等給与内規、経理規程、修学資金等貸付規程)②平成29年度第3次収支補正予算、③平成30年度事業計画及び収支予算、④平成30年度資金運用計画、⑤第3回評議員会の開催、⑥幹部職員の人事異動、【報告事項】・グループホーム王子建設の進捗状況・職員等の採用退職の状況・平成30年度社会福祉法人養楽福祉会監事監査計画

(2) 評議員会

開催日	議 題
1 6月16日	【議題】①評議員会運営規程の制定、②平成28年度事業報告及び収支決算、③平成29年度第1次収支補正予算、④役員を選任、⑤役員等報酬規程の制定、⑥理事及び監事の報酬等の総額、⑦定款の変更【報告事項】・定款・評議員選任解任委員会運営規程・平成29年度事業計画及び収支予算・中期計画
2 11月16日	【議題】①平成29年度第2次収支補正予算、②グループホーム王子(仮称)の建設、③評議員会運営規程の改正、【報告事項】・職務執行状況・監事監査規程・中間監事監査の結果・短期入所サービス費の過大請求
3 3月16日	【議題】①平成29年度第3次収支補正予算、②平成30年度事業計画及び収支予算、【報告事項】・グループホーム王子建設の進捗状況・職員等の採用退職の状況・幹部職員の人事異動・平成30年度社会福祉法人養楽福祉会監事監査計画

(3) 監事監査

実 施 日	監 査 内 容
5 月 19 日	平成 28 年度決算監査
10 月 11 日・13 日・18 日	各施設等の巡回業務指導

(4) 運営会議

運営会議を年 8 回開催し、各施設の現況を共有すると共に、経営改善・事業間調整・サービス向上など施設運営に関する重要事項を協議しました。

5. 苦情解決体制の整備

「社会福祉法人養楽福祉社会福祉サービスに関する苦情解決規程」を定め、苦情解決のための体制を整えています。平成 29 年度においては、入所施設における入浴回数に関する苦情が 1 件ありましたが、苦情解決責任者である施設長からの事情説明によりご納得いただき、解決しています。

6. サービス評価の実施

福祉サービスの質の向上を図るため、平成 27 年度から「福祉サービス第三者評価」を受審しており、平成 29 年度は、第二養和荘及びさいおワークスで実施しました。

7. 社会福祉法人改革への対応

社会福祉法人改革において、当法人の収益規模では平成 33 年度には会計監査人(公認会計士等)を設置し、その監査を受けなければならないこととされており、平成 28 年度から公認会計士の助言・指導を受けながら、各種規程や資産管理の見直しなど経営・労務管理の改善に取り組んでいます。平成 29 年度は、支出・固定資産管理等経理関係の業務手順書(マニュアル)を作成しました。

8. 防犯・防災対策の実施

平成 28 年 7 月に神奈川県相模原市の障害者支援施設で発生した利用者等の殺傷事件を受け、入所施設を中心に防犯カメラを設置するなどの防犯対策を実施しておりますが、平成 29 年度は新規に開設したはるひ荘に人感センサーを設置しました。

また、防災対策としては、平成 28 年度に見直しをした非常災害対策計画に基づき、各施設において避難訓練を実施しました。

9. 借入金返済(借入先：独立行政法人福祉医療機構、瀬戸信用金庫)

年度当初借入残高	借 入 額	償 還 額	年度末借入残高
1,309,050,000 円	73,580,000 円	49,204,000 円	1,333,426,000 円

10. 施設整備積立金

積立済額	積立額	取崩額	年度末積立額
91,544,923 円	23,080,000 円	0 円	114,624,923 円

◎運用状況

あいち県民債(5年)15,000,000円(三菱UFJ)、大口定期(5年)15,000,000円(瀬戸信)、大口定期(5年)30,000,000円(瀬戸信)、第46回ソフトバンクグループ社債(5年)30,000,000円(三菱UFJモルガン・スタンレー証券)、三菱UFJモルガン・スタンレー証券取引口座 1,544,923円、三菱UFJ銀行普通預金 23,080,000円

事業報告附属明細書（地域サポートセンター）

障害がある方の地域生活をサポートするために、相談支援事業、障害者相談支援体制整備事業、就業・生活支援センター事業、障害児等療育支援事業、共同生活援助事業、地域活動支援センター事業、居宅介護事業、移動支援事業、福祉有償運送事業を実施しました。これらの実績につきましては、以下の通りです。

1. 障がい者生活支援センターかすがい

(1) 相談支援事業

事業計画通り 2 名の有資格者を配置し実施しました。主に知的障害者及びご家族の方々への基本相談の他、虐待や DV 関係など、関係機関と連携しなければならない相談も多くありました。相談件数については、前年度比で減少していますが、福祉サービスの調整などが特定相談支援（計画相談）へ移行しつつあることや、依存傾向のある方に対し、必要なニーズを整理し、適度な距離感を保ちながら関わるなど、より質の高い相談支援を実施することが出来ました。

	平成 29 年度	平成 28 年度	前年度比
相談件数	2,647 件	4,073 件	64.98%
相談者数（新規）	175 名	299 名	58.52%

(2) 特定相談支援事業

専任者を配置したことで、着実に作成件数が増加しました。法人内の施設入所支援利用者を中心とし、地域の利用者も含め可能な限り計画作成に努めてきました。今後も、法人内の利用者を中心に、一件でも多く質の高い計画作成ができるよう、更に体制の強化に努めてまいります。

	平成 29 年度	平成 28 年度	前年度比
計画作成	221 件	135 件	163.70%
モニタリング	64 件	30 件	213.33%

2. 愛知県障害者相談支援体制整備事業（地域アドバイザー）

尾張北部障害保健福祉圏域 5 市 2 町に対し、自立支援協議会の活性化及び障害者計画等の進捗状況把握の他、法改正により障害児福祉計画の立案にも携わり、オブザーバーや委員として、あらゆる場面で助言・指導を行うことができています。アドバイザー研修事業としては、春日井・江南保健所と連携し、地域移行・地域定着に関する研修を実施しました。また、愛知県障害者相談支援従事者研修の企画・運営にも参加し、尾張北部圏域内ではフォローアップ研修等も実施するなど、相談支援専門員のスキル向上に向けて取り組みました。

3. 尾張北部障害者就業・生活支援センターようわ（雇用安定等事業・生活支援等事業）

事業計画通り、センター長、主任就業支援ワーカー、生活支援ワーカー、就業支援ワーカー 3 名の計 6 名体制で実施をしました。坂下事務所・サテライト柏森事務所での事業展

開により、事業主や関係機関等からの相談も着実に増えてきている為、ますます選ばれるセンターに近づいてきています。その他、各市町の自立支援協議会、管轄ハローワークとの連携強化もあり、障害者雇用推進セミナーの開催は大盛況に終わりました。ネットワーク会議では障害者を複数雇用されている事業主に参加していただき、困っている現状を話し合う機会を設けることができました。

	平成 29 年度	平成 28 年度	前年度比
登録者	822 名	700 名	117.42%
相談件数	4,991 件	5,451 件	91.56%
職場実習件数	80 件	62 件	129.03%
就職者件数	94 名	86 名	109.30%
職場定着率	88.8%	80.00%	111.00%

4. 障害児等療育支援事業

非常に厳しい委託費状況の中、広域事業として兼任者 1 名を配置し実施をしてきました。児童発達支援センターなど市町村が担う役割が多くなり、その立ち上げ、活性化の助言・指導が求められています。今年度も例年通り、学校教育現場からのオーダーが多くなったことが特徴的でした。今後も、教育現場とのより効果的な連携を模索していきます。また、法人内の機能を利用した外来療育指導事業の展開（スヌーズレン、グループホーム等の見学、保護者を交えた座談会）は充実し、好評でした。

	平成 29 年度	平成 28 年度	前年度比
在宅支援訪問療育等指導事業	117 回	40 回	292.50%
在宅支援外来療育指導事業	23 回	16 回	143.75%
施設一般指導事業	73 回	58 回	125.86%

5. 共同生活援助事業（グループホーム）

グループホーム坂下・太陽・さいおの計 3 事業所 9 ホーム（定員 49 名）の体制で事業展開しました。年度途中で、施設入所や地域生活への移行など、数名の退所者に伴う定員変更（1 名減）があったため、年齢や受診状況等を考慮してホーム間での利用者の再編成を行いました。この年齢については、高齢化の課題（平均年齢：約 50 歳）は否めませんが、各ホームから上がってくる健康面の情報を看護師（他事業所兼務）がより効率的に一元管理出来るように体制を整備しました。また毎月の会議において、世話人を対象とした勉強会や各通所事業所の見学会を開催し、支援の質の向上にも取り組んできました。利用者支援においては、冬季にイルミネーション外出等を積極的に取り入れ、楽しい時間を過ごすことができるよう努めてきました。

		平成 29 年度	平成 28 年度	前年度比
坂 下	利用者数（定員数）	17 名	18 名	94.44%
	開所日数	365 日	365 日	100.00%
	延べ利用者数	6,035 名	6,248 名	96.59%
	1 日平均利用者数	16.53 名	17.11 名	96.61%
	利用率	97.26%	95.09%	

太陽	利用者数（定員数）	12名	12名	100.00%
	開所日数	365日	365日	100.00%
	延べ利用者数	3,491名	3,628名	96.22%
	1日平均利用者数	9.56名	9.93名	96.27%
	利用率	79.70%	82.83%	
さいお	利用者数（定員数）	20名	20名	100.00%
	開所日数	365日	365日	100.00%
	延べ利用者数	6,509名	6,555名	99.29%
	1日平均利用者数	17.83名	17.95名	99.33%
	利用率	89.16%	89.79%	

6. 地域活動支援センター事業

グループホーム利用者を中心とし、土日の余暇支援を実施しました。具体的には、近隣の公民館等で開催される行事に参加するなど、地域との交流を深めることを目的に活動してきました。また、屋内での創作活動等では、カレンダー作りや貼り絵作りを通し、楽しみながら過ごせるよう支援してきました。なお、在宅利用者に対してもサービス提供に力を入れてきたため、利用率は昨年度より微増しました。

定員 12名	平成 29 年度	平成 28 年度	前年度比
開所日数	103日	110日	93.63%
延べ利用者数	1,222名	1,212名	100.82%
1日平均利用者数	11.86名	11.01名	107.72%
利用率	98.86%	91.81%	

7. 居宅介護事業・福祉有償運送事業（移動サービス）

例年通り、グループホーム利用者の外出支援（移動支援事業）・通院介助の支援を実施してきました。在宅利用者へのサービス提供については、相談支援事業所や法人内通所事業所からの情報提供で繋がるケースもあったため、利用実績も比例して増えました。登録ヘルパーの獲得については、年度末に2名の登録ヘルパーを採用（グループホームとの兼務）できたため、引き続き、採用に向けて力を注いでいくこととします。また、福祉有償運送事業については、対象利用者を主に在宅利用者に重点を置きましたが、利用実績を落とすことなく、事業展開を図ることができました。

		平成 29 年度	平成 28 年度	前年度比
身体介護	契約者数	22名	22名	100.00%
	延べ利用者数	780名	517名	150.87%
行動援護	契約者数	5名	4名	125.00%
	延べ利用者数	142名	121名	117.35%
移動支援	契約者数	45名	45名	100.00%
	延べ利用者数	936名	826名	113.31%
移動サービス （有償運送）	契約者数	6名	11名	54.54%
	延べ利用者数	910名	800名	113.75%

事業報告明細書（障害者支援施設 養和荘）

新しい環境での生活の安定を第一義として支援を行ってきました。今年度は年度途中から新規入所利用者を受け入れ、施設入所については満床としました。これに伴い、男性利用者さんの生活面や日中活動において変化が生じることとなりました。このことから、穏やかに日々を過ごしていただくため、本人さんやご家族等の了解をいただき、居室変更や活動班の再編成を行いました。結果としては、生活の安定を図り易い状態とすることができました。また、支援者側としても必要な支援が届け易い状況を生み出せています。

事業実績につきましては、以下のとおりです。

1. 利用者の状況

生活介護事業(定員 75 名)、施設入所支援事業(定員 75 名)、短期入所事業(定員 5 名)を提供しました。

生活介護事業、施設入所支援事業ともに契約者の増により利用率等も増となっています。また、利用者のスキルに合せ法人内の通所施設を利用している者が 2 名います。

短期入所事業は土曜日・日曜日に利用希望が集中することは従来から変わりありません。年度途中から、はるひ荘での受け入れも開始されたことから利用率としては減となっています。緊急・長期の利用者が目立ちました。

利用者の状況は下表のとおりです。

	定員	開所日数	年度	利用状況		
				延利用者数	利用率	1日平均利用者数
生活介護	75名	269日	29年度	19,198名	95.15%	71.36名
		269日	28年度	18,594名	92.16%	69.12名
			対前年比	103.24%		
施設入所	75名	365日	29年度	26,214名	95.75%	71.81名
		365日	28年度	25,251名	92.24%	69.18名
			対前年比	103.81%		
短期入所	5名	365日	29年度	2,229名	122.13%	6.10名
		365日	28年度	2,637名	144.49%	7.22名
			対前年比	84.52%		

2. 入退所の状況

入 所		退 所	
人 数	備 考	人 数	備 考
3名	在宅より	0名	

3. 支援体制

個別支援計画に沿って、日常生活支援及び日中活動支援を行いました。新規利用者があったことから、活動班メンバーを再編しました。本年度も、生活の充実と生活スキル及び身体機能の維持向上に取り組みました。

(1) 日中活動

活動名称・員数	内 訳	活 動 内 容
スノーズレン (13名)	男性：7名 女性：6名	五感を刺激するスノーズレン機器の活用にて、利用者個々の精神安定を図る。
療 育 (20名)	男性：16名 女性：4名	近隣の公園や公共施設に出掛け、ウォーキングやアスレチック遊具を用いた取り組みを行い、生活リズムと精神的な安定を図る。
運 動 (18名)	男性：13名 女性：5名	歩行を中心にラジオ体操や個々の身体状況に応じた運動プログラムに取り組み、身体機能の維持・低下防止を図る。
農 耕 (12名)	男性：12名 女性：0名	借用した農地にて野菜の栽培等を通して生活意欲や体力維持を図る。
園芸・フェルト工芸 (10名)	男性：0名 女性：10名	花壇を用いて花の栽培を行う。フェルト作品は各種作品展に出品。生活意欲の向上につなげる。

*活動としてヒップホップの講師を週1回招いての活動も継続した。(男女合わせ13名)

(2) 主な行事等

実施日	行 事 等	行 先 ・ 開 催 場 所
8月20日	夏祭り	養和荘管理棟前(第二養和荘合同行事)
9月18日	きずなコンサート	東部市民センター
11月5日	ふれあいまつり	養和荘グラウンド(第二養和荘合同行事)
12月3日	餅つき	ピロティ(第二養和荘合同行事)
12月22日	クリスマス会	養和荘多目的室
	招待行事	なかぎりワークスげんきまつり(7/17) 洞戸観光ヤナ(8/2)
	小行事	焼肉(9/22)・30周年記念会食会(10/4) 新年会(1/26)・お疲れ様会(3/23)
	外出・外食	アクア・トトぎふ・名古屋港水族館 東山動植物園・あいち航空ミュージアム 市内各種飲食店

*外出・外食は少人数にて実施。いずれも利用者ひとりあたり年2回の実施としています。

4. 給食

利用者の嗜好を考慮しながら、栄養バランスも考えた献立作りとその提供に努めました。また、リクエスト献立やご当地グルメと献立作成に工夫を凝らしました。栄養ケアマネジメントを通し、利用者の咀嚼機能や年齢に合った食事形態・カロリーで提供し、利用者の健康管理にも努めました。

5. 健康管理

健康診断を年 2 回実施すると共に、歯科検診を定期的に行いました。健康診断については名古屋公衆医学研究所に依頼し検診車にて実施しました。今年度は、インフルエンザへの罹患にて終息までに約 1 ヶ月を要してしまいました。健診状況等については次のとおりです。

5 月 9 日	利用者健康診断	名古屋公衆医学研究所検診車
10 月 3 日	利用者健康診断	名古屋公衆医学研究所検診車
11 月 13 日	インフルエンザ予防接種	森医師
月 1 回	嘱託医来所、健康相談	沖医師
〃	内科医による診察	森医師
年 2 回	嘱託歯科医による検診	川原歯科医師

6. 環境整備

清潔で快適な生活環境を維持できるよう日々の清掃等に心掛けました。開所から間もないものの、エアコンの不具合や居室等の鍵の不具合など一部修繕が必要となる事態も発生しましたが、早期に対応を図り生活に不都合がないようにしました。

7. 防災・防犯

災害が発生した場合に、利用者の生命の安全を最優先に行動できるよう、避難誘導訓練等を実施しました。また、防犯対策については、防犯マニュアルをもとに緊急時の対応や防犯機器の取り扱いについての教育を行いました。

実施日	訓練内容
4 月 4 日	消火訓練・AED訓練（新規採用者対象）
5 月 18 日	夜間想定火災避難誘導・通報訓練
6 月 15 日	夜間想定火災避難誘導・通報訓練
7 月 20 日	日中想定火災避難誘導・通報訓練
8 月 24 日	防災教育（テスト含む）
9 月 1 日	総合防災訓練（炊き出し訓練、地震体験車・煙道体験） 日中地震想定火災避難誘導・通報訓練
10 月 12 日	夜間想定火災避難誘導・通報訓練
12 月 21 日	防災教育（テスト含む）
1 月 15 日	災害用伝言ダイヤル訓練
2 月 26 日	緊急連絡網訓練
3 月 22 日	風水害想定避難誘導訓練

* 11 月・3 月は天候不良により避難誘導訓練は中止としました。

8. その他

ヒップホップダンスチームの名称を「SAM（サム）」と命名し、外部での発表機会を広げています。また、余暇活動の取組みの中で、男性利用者の 2 名が第 10 回ふれあいアート展において「JIC セントラル社長賞」「県サポート協会理事長賞」を受賞しました。うち、1 名は昨年に続いての受賞となりました。

事業報告附属明細書（障害者支援施設 第二養和荘）

生活介護事業（定員 40 名）、施設入所支援事業（定員 40 名）、短期入所事業（定員 2 名）を実施しました。利用者の高齢化が進む中、安全で快適な生活を送ることができるように配慮すると共に、医療機関との連携を図りました。

事業実績につきましては、以下のとおりです。

1. 利用者の状況

	定員	開所日数	年度	利用状況		
				延べ利用者数	利用率	1日平均利用者数
生活介護	40名	269日	29年度	10,343名	96.12%	38.44名
		269日	28年度	10,377名	96.44%	38.57名
			前年度比	99.67%		
施設入所	40名	365日	29年度	14,349名	98.28%	39.31名
		365日	28年度	14,257名	97.65%	39.06名
			前年度比	100.64%		
短期入所	2名	365日	29年度	179名	24.52%	0.49名
		365日	28年度	333名	45.61%	0.91名
			前年度比	53.75%		

*生活介護、施設入所支援の利用状況は前年度並みでした。

*施設入所支援契約者のうち2名は障害福祉サービス事業所「わかば」の就労継続支援B型を契約、利用中です。

*短期入所新規契約者1名、契約解除者0名。現在の契約者は9名です。緊急や長期での利用が少なかったため、利用状況は減少となりました。

2. 入退所の状況

入 所			退 所		
月日	人数	備考	月日	人数	備考
4月1日	1名	在宅より	10月24日	1名	死亡
12月1日	1名	GHより			

3. 支援内容の状況

(1) 個別支援計画

本人や家族の意向を聞き取り、モニタリング、再アセスメントででてきた課題や支援の状況を家族に説明して、よりよい支援を実施できるようにしました。また、サービス等利用計画についても、相談支援事業所と連携をして行うことができました。

(2) 健康管理

利用者の健康管理として、下記のとおり実施しました。

5月16日、10月17日	利用者健康診断	名古屋公衆医学研究所
11月30日	インフルエンザ予防接種	牧野ファミリークリニック
月1回	嘱託医来所、健康相談	沖医師
月1回	内科医による診察	牧野医師
年2回	嘱託歯科医による検診	川原歯科医師

今年度もインフルエンザの罹患者はいませんでした。手洗いとうがいの励行、手指や器具類のアルコール消毒や必要に応じて手袋、マスクの着用をしました。

転倒で受診したケースが6件（骨折が1件、裂傷による縫合が4件）ありました。歩行状態が悪くなってきていることから、車椅子や歩行器の使用を始めるケースも2件ありました。利用者の高齢化に伴っての身体機能の低下や内臓疾患、認知症等への対応を利用者個々に行いました。

病気による医療機関への入院は下記のとおりでした。

年度	入院者数	入院期間
29年度	5名（7回）	97日（入退院日を含む）
28年度	5名（6回）	174日（入退院日を含む）

(3) 給食

利用者の状況を栄養士に報告し、食事形態や提供方法を適切に対応することができました。栄養バランスやカロリーの他に、季節感のある献立内容や食材の使用、利用者の希望メニューを取り入れることで利用者には好評でした。また、食前に飲込み体操を行い誤嚥予防に努めました。

(4) 入浴

月・水・金曜日を入浴日とし、利用者の介護度により一般浴と機械浴に分けて実施しました。発汗や汚染した際には適宜シャワー浴を行いました。

(5) 日中活動支援

リハビリ・レクリエーション班と創作活動班の2班に分かれて活動を行いました。リハビリ・レクリエーション班では、歩行器やシルバーカーを使用しての歩行やストレッチ、リハビリ体操を中心に、ボウリングや輪投げ等のゲームをしたり音楽を流したりして楽しみながら身体を動かすことができるようにしました。また、月に2回の東海記念病院の作業療法士によるリハビリ指導では、身体機能の維持を目的に個別のリハビリメニューが生まれ、内容は利用者個々の状態に合わせて更新されました。作業療法士に指導を受けた後に、ボール運動、立ち上がり運動や平行棒、手摺りを使った開脚等のメニューも活動内で行いました。足湯をしたり、スヌーズレン棟を利用してボールプールやウォーターベッドで楽しんだりするメニューも実施しました。

創作活動班で制作した作品は、施設内で掲示をして来訪者の方々に見ていただいたり、あいちアールブリュット展、福祉のつどい、障害者団体等作品展等に出品をしました。

(6)行事等

行事については、下記のとおり実施しました。小班編成でのグループ外出・食事会は、本人の希望を聞き取ってメンバーや行き先等を検討して実施しました。

8月20日	夏祭り	養和荘管理棟前（養和荘合同行事）
9月18日	きずなコンサート	東部市民センターホール
10月4日	30周年記念会食	ホテルグランドティアラ春日井
10月17日	バーベキュー	第二養和荘ウッドデッキ、グラウンド
11月5日	ふれあいまつり	養和荘グラウンド（養和荘合同行事）
11月22日	秋の行楽	犬山城、名鉄犬山ホテル
12月3日	餅つき会	ピロティ（養和荘合同行事）
12月22日	クリスマス会	第二養和荘ダイルーム（食事、レクリエーション）
2月15日	新年会	第二養和荘ダイルーム（食事、レクリエーション）
3月22日	お楽しみ会	第二養和荘ダイルーム（食事、レクリエーション）
	グループ外出・ 食事会	ナゴヤドーム（野球観戦）、アクア・トトぎふ、 名古屋港水族館、日本昭和村、トヨタ会館、 岡崎東公園、のんほいパーク、なばなの里

(7) 環境整備

業者による浴室の床の貼り替え工事やベランダの防水工事等を行いました。日常的な施設設備の点検や日頃の清掃や整理整頓に心掛けて、利用者が快適に生活することができる環境作りに努めました。

(8) 防災・防犯

火災・震災発生を想定した避難誘導訓練等、防災教育については、下記のとおり実施しました。また、防犯対策については、防犯マニュアルをもとに、緊急時の対応や防犯機器の取り扱いについての教育を行いました。

4月4日	新規採用職員防災教育、消火訓練
5月25日	夜間の火災想定、通報及び避難誘導訓練
6月2日	防災教育（避難誘導）
6月15日	夜間の火災想定、通報及び避難誘導訓練
7月13日	夜間の火災想定、通報及び避難誘導訓練
9月1日	日中の地震・火災想定、通報及び避難誘導訓練、炊出し訓練、地震・煙道体験
10月20日	夜間の火災想定、通報及び避難誘導訓練
11月16日	夜間の火災想定、通報及び避難誘導訓練
12月18日	夜間の火災想定、通報及び避難誘導訓練
11月24日	防災教育（救急蘇生法、非常災害対策）
12月18日	防災教育（救急蘇生法、非常災害対策）
2月15日	防災教育（災害用伝言ダイヤル）
3月27日	日中の風水害想定、通報及び避難誘導訓練

事業報告附属明細書（障害福祉サービス事業所 はさま）

春日井市内在住の知的障害者に対して、通所支援サービスの生活介護事業（定員 25 名、契約者 43 名）、また、春日井市事業で土曜・日曜日の余暇支援として地域活動支援センター事業（定員 29 名＋緊急時 1 名、契約者 78 名）を実施しました。

事業実績につきましては、以下のとおりです。

生活介護

1. 利用実績

平成 30 年 3 月末日現在の利用契約者数 43 名

年度	開所日数	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	合計
29 年度	256 日	3,671 名	2,468 名	1,114 名	77 名	0 名	7,330 名
28 年度	259 日	3,096 名	2,391 名	1,167 名	78 名	0 名	6,732 名
前年度比		118.57%	103.22%	95.45%	98.71%	—	108.88%

※ 1 日の平均利用者数 28.63 名（28 年度 25.99 名）

※ 平均障害程度区分 5.33（28 年度 5.26）

2. 利用者状況

契約開始（9 人）		契約解除（12 人）	
人数	備考	人数	備考
1	在宅より	8	入所・長期短期入所先の変更
2	週 2 日利用（他日は他事業所利用）	2	他事業所利用
3	他事業所より	1	入院
3	長期短期入所・はるひ荘より	1	介護保険に移行

3. 事業内容

(1) 支援内容

① 個別支援計画

時期を固定せず、利用者の達成状況を見ながら適宜作成してきました。

② 日中活動の内容

ア、 歩行（岩船神社・農村公園・第二養和荘外周）

イ、 運動（ラジオ体操、ストレッチ体操等）

ウ、 軽作業・創作活動（牛乳パックリサイクルの紙漉き・絵画、貼り絵等）

エ、 ボランティア講師による活動（茶道、書道、ストレッチ、お手玉）

オ、 レクリエーション（カラオケ、ゲーム等）

カ、 入浴を希望者に対し実施しました。

③ 健康管理

看護師による月 1 回の体重・血圧測定（高血圧の方は週一回）を実施し各家庭にも報告を行ってきました。服薬や受診等の個別の健康状態については、健康管理

シートを活用し送迎時の家庭からの聞き取りにより利用者の現状把握に努めました。健康診断は5月22日、インフルエンザ予防接種は11月17日に希望者に実施しました。今年度は3名のインフルエンザ罹患者がおりましたが、それ以上広がることはありませんでした。また、歯科検診も養和荘歯科検診室にて、春秋を目安に行いました。

④ レスパイトサービス

サービス提供時間外の延長サービスとして、最大19時まで事業所内で見守り支援を行っていますが、延べ26名の方が利用されました。

(2) 年間行事

① 全体行事

		参加者				
		利用者	保護者	ボラ	招待	職員
春の行楽	5月30日	28名	16名	1名		15名
春のお茶会	6月8日	30名	8名	5名	10名	14名
夏のつどい	8月23日	32名		8名		15名
きずなコンサート	9月18日	25名		3名		14名
秋のお茶会	11月9日	27名	8名	6名	10名	16名
秋の行楽	11月30日	24名		0名		17名
新年のつどい	1月8日	26名	13名	2名		18名

② 個別行事（小グループ外出・買い物外出・ランチ外出）

6月19日～12月14日の間に、各回、利用者3～7名、職員1～3名のグループを組み、希望される場所へ出掛けました。利用者は延べ104名が参加しました。

4. 学生実習

- (1) 中京大学 8～9月に各5日間、11名が教員免許取得のための福祉体験実習
- (2) ナゴノ歯科医療専門学校 4～5月に2日に分かれて計17名が実習
- (3) 春日台特別支援学校 10月に10日間高等部3年生、1月に5日間高等部2年生の職場実習
- (4) 社会福祉士相談援助実習 3月に9日間受け入れ（4月以降も継続）

地域活動支援センター（春日井市事業：土曜日・日曜日）

1. 利用者状況 契約者数 78名
利用実績

年度	定員	開所日数	利用状況		
			延利用者数	利用率	1日平均利用者数
29年度	29名	103日	2,179名	72.94%	21.15名
28年度	20名	102日	2,025名	99.26%	19.85名
前年度比			107.60%		

（今年度から定員の内20名は送迎を事業所にて行い、9名は保護者送迎のみ利用可能と変更し、定員増しました）

2. 事業内容

(1) 支援内容

ストレッチ体操・歩行・カラオケの活動を中心とした余暇活動を実施してきました。入浴サービスは今年度から停止しました。

共通事項

1. 食事

献立表を各家庭に渡し、カロリー制限の方については、送迎の際に、カロリーを報告しています。食事については、季節を感じられるメニューや行事食、また、8月から3月には調理実習を取り入れました。

2. 送迎

契約者のうち、生活介護 40 名・地域活動支援センター77 名の方が送迎を利用されています。赤い羽根募金の受配により送迎車両が増車し、生活介護 5 台・地域活動支援センター3 台の車両により送迎を実施しました。

3. ティータイム

利用者の選択した飲み物を提供しました。砂糖はカロリーゼロの甘味料にて対応をしました。

4. ボランティア

定期的に協力を頂いている方や新規の方も含め、延べ 268 名の協力を得ることができました。

全体

1. 防災・防犯計画

火災・地震の発生を想定して、利用者の安全確保を第一とした避難誘導訓練を生活介護事業では 6 回、地域活動支援センター事業では 4 回実施しました。今年度から、風水害にかかる避難訓練を生活介護事業で 2 回実施しました。また、非常食料は 3 食分を備蓄しています。防犯については各フロアに防犯ブザー・カラスプレーを用意し職員も全員非常時に鳴らす笛を携帯しております。

2. 職員研修

(1) 内部

毎月のスタッフ会議の中で、虐待のセルフチェックを行い、自身の支援の振り返りを行いました。その他には、日々の支援に直結した事故を未然に防ぐための研修等を行いました。

(2) 外部

福祉協会の主催する研修を中心に 9 名の職員が 21 講習・研修等に参加しました。

事業報告附属明細書（障害福祉サービス事業所 なかぎりワークス）

就労継続支援 B 型事業の定員を 4 月から 48 名に増員し、契約利用者は、52 名で事業実施しました。事業実施状況は以下の通りです。

1. 利用者の状況

定員	開所日数	年度	利用状況		
			延利用者数	利用率	1日の平均利用者数
48名	269日	29年度	11,872名	91.94%	44.1名
40名	257日	28年度	11,913名	115.89%	46.35名
		前年度比	99.65%		

*29年度開所日数は、販売日による一部開所も含む日数

利用開始・終了

利用開始		利用終了	
2名	1名（特別支援学校卒業後の進路） 1名（在宅より）	1名	（生活介護へ）

2. 生産活動

(1) 農作物事業

天候による生育不良と機械系統の不具合のため、不調であった前年度よりさらに収量が減少しました。管理コストも増加傾向である為、栽培方法を見直し、7月に水耕栽培から、ハウスを利用した野菜の自然栽培に切り替えました。組合や生産農家からの指導を受けつつ、生産安定を目指しました。水菜の調整作業はこれまで通りサンスイ生産組合から受注しました。

	生産組合納品額	調整受注	水菜一般販売	野菜販売	合計
平成29年度	557,007円	980,925円	305,817円	388,207円	2,231,956円
平成28年度	1,944,953円	940,155円	253,233円		3,138,341円
前年度比	28.63%	104.33	274.06%		71.11%

(2) パン事業

生産部門の職員体制の都合により、4月～2月まで、市役所元気ショップ販売を週2回から1回にして、品質維持を優先した為、売上は減少しました。定期的な納品・販売先は11箇所です。また、菓子製造は、技術者が確保できず、9月から休止しています。

	納品・店内販売	元気ショップ	イベント	合計
平成29年度	5,485,014円	5,321,640円	822,450円	11,629,104円
平成28年度	1,455,221円	7,769,610円	4,426,715円	13,651,546円
前年度比		68.49%		85.18%

*「店内販売」は、店頭・予約・納品・定期巡回販売等、「イベント」は催し物出店、と区分しました。

(3) 製品受注事業

受注作業の取引会社は 5 社でした。取扱量の多くなった作業種もあり、収入としては増加しました。利用者に理解しやすいように作業工程の工夫も行いました。

	エルスタット	ヤガミ	京都キデイ	春日井加工所 梱包屋他	合計
平成 29 年度	502,250 円	131,760 円	241,493 円	127,434 円	1,002,937 円
平成 28 年度	470,600 円	123,000 円		288,539 円	882,139 円
前年度比	106.72%	107.12%		44.59%	113.69%

(4) 利用者工賃

農産物・パンとも減収となったため、工賃支払額は前年度より低くなりました。総収入に占める工賃の比率は上昇しており、農産物部門でのコスト減を反映した形となりました。

	作業総収入額	工賃総支払額	支払延人数	平均月額工賃額
平成 29 年度	14,863,997 円	7,467,252 円	608 名	12,281 円/月
平成 28 年度	17,672,026 円	8,208,112 円	603 名	13,612 円/月
前年度比	84.11%	90.97%	100.06%	90.37%

3. その他

(1) 個別支援計画

計画に沿った支援を行うとともに、6ヶ月毎にモニタリングし、利用者・保護者の意見・要望を聴き取りつつ、次期計画につなげるようにしました。

(2) 健康管理

利用者の健康管理を、下記のとおり行いました。

5月23日	利用者健康診断（名古屋公衆医学研究所来所）
11月27日	歯科検診・歯磨き指導（ナゴノ福祉歯科医療専門学校）
11月13日	インフルエンザ予防接種（勝川医院来所）

感染症に関して、冬季にインフルエンザのため欠席する利用者が6名いました。

(3) 給食

業者委託による給食提供を行いました。委託先の栄養士が定期的に来所し、利用者からの意見・要望を聴き取り、献立に反映しました。

(4) 通所支援

マイクロバスと8人乗り送迎車両にて、春日井駅・八光公園、勝川駅の送迎、また、高蔵寺方面の利用者の送迎も実施しました。34名の利用者が送迎サービスを利用しました。

(5) 行事

行事は下記のとおり実施しました。

7月17日	げんきまつり（なかぎりワークス内）
9月18日	わくわくホリデー（絆コンサート・東部市民センター）
11月20日	お楽しみ旅行（TOTOミュージアム、まるは食堂）
12月25日	クリスマス会（なかぎりワークス内）
1月8日	新年会・もちつき（なかぎりワークス内）

(6) 本人会支援

利用者のエンパワメントを高める機会として、毎月本人会（せいかつ集会）を開催し、委員会活動などが主体的に進められるよう、見守り・助言を行いました。

(7) 地域交流・地域貢献

恒例の春日井まつりどっこいせパレード参加は、雨天のため中止となりました。
地域貢献活動としては、庄内川河川敷清掃及び本人会活動による地域美化（ゴミ拾い）活動を実施しました。

(8) 防災・防犯

5月にロッカー室内で火災が発生し、小火ではありましたが不審火とされ、警戒・監視体制を厳重に行うようにしました。さらに、9月に作業室内で鍋の空焚き事故が発生したので、不注意を生じない業務手順に改めました。

防災訓練は下記のとおり実施しました。

5月12日	防災教育（防災機器の取り扱い）
9月1日	法人総合防災訓練（地震・火災想定避難訓練）

防犯訓練として、不審者侵入を想定した訓練を実施しました。

(9) 苦情解決

苦情の受付は5件ありましたが、申立者との面談、対応策の提示、説明等により、解決に至っています。

事業報告附属明細書（障害福祉サービス事業所 わかば）

事業所の利用定員は、40名と変わりなく、生活介護事業（定員10名）と就労継続支援B型事業（定員30名）を実施しました。両事業とも適切な環境のもとに支援を行いました。

事業実績につきましては、以下のとおりです。

1. 生活介護事業

(1) 利用者状況

ア 契約利用者数 10名

年度	定員	開所日数	延べ利用者数	利用率	1日平均利用者数
29年度	10名	256日	2,291名	89.49%	8.94名
28年度	10名	257日	2,534名	98.59%	9.85名
前年度比			90.41%		

イ 利用開始・利用終了

利用開始		利用終了	
人数	備考	人数	備考
2名	はるひ荘より	1名	はさまへ
		1名	死亡（GH坂下入居者）

(2) 支援状況

ア 週間スケジュール

下記の週間スケジュールを基本として活動しました。運動内容については、昨年度と同様に利用者の年齢差を考慮した内容としました。

	月	火	水	木	金
午前	園芸	歩行・運動	園芸	歩行・運動	創作活動
午後	創作活動	レクリエーション	創作活動	レクリエーション	ドライブ

イ 支援内容

活動項目	内容
園芸	借用の畑で花・野菜などを栽培しました。育てた花は切り花等として館内に飾り、野菜・果物（約10種類）は給食や行事等で活用しました。
創作活動	春日井市の障がい者団体等作品展（12月4日～8日）に全員が出展し、特別な場所への出展に達成感を得ることが出来た様子でした。
歩行・運動	近隣の公園への散歩は、体力面等を考慮し複数に分けて出掛けました。作品作りに使用する材料（落ち葉等）を集めること等もしながら、楽しんで出掛けられるよう工夫をしました。
レクリエーション	カラオケ、ダーツ、輪投げ、ボーリング、DVD観賞等を行い、余暇時間の充実を図りました。
ドライブ	近郊の公園（四季の森、落合公園等）に公用車で出掛け、車窓の風景や現地での散策により、気分転換を図ることができるようになりました。
その他	ビオトープは、わかばの玄関先でメダカの飼育を継続して行っており、引き続き人気スポットとなっています。

2. 就労継続支援 B 型事業

(1) 利用者状況

ア 契約利用者数 31 名

年度	定員	開所日数	延べ利用者数	利用率	1 日平均利用者数
29 年度	30 名	256 日	7,141 名	92.98%	27.89 名
28 年度	30 名	259 日	7,332 名	94.36%	28.30 名
対前年比			97.39%		

イ 利用開始・利用終了

利用開始		利用終了	
人数	備考	人数	備考
1 名	はるひ荘より	1 名	別法人事業所（就労 B）へ
1 名	在宅より		

(2) 支援状況

ア クリーニング作業

入所施設からの洗濯物受注を基幹作業とし、中日本リネンからも布団類等の洗濯を受注しました。また、今年度より独立法人高齢・障害・求職者雇用支援機構愛知支部 中部職業能力開発促進センター（通称 ポリテクセンター中部）より、宿泊者の寝具類のクリーニングも受注も開始しています。また、7 月からはるひ荘の洗濯物受注、また養和荘洗濯室のわかば出張所としての使用をスタートし、軌道に乗せることが出来ました。

イ 水耕野菜出荷調整作業

サンスイから水耕野菜を受領し、出荷に向けた調整・梱包作業を実施しました。今年度の受領数は昨年度と大きく変わりなく、減少することも無くコンスタントに作業をいただくことが出来た為、結果縮小した作業班で日々適度にこなせる量となりました。また、水菜の再生品販売については、地域の飲食店（計 7 店舗）で順調に販売を継続できており、収益を上げることが出来ています。

ウ 内職作業

気泡緩衝材カタログ作成作業、毛染め説明書袋詰作業、キューマスク（人工呼吸時に使用するマスク）ケース詰め作業を中心に実施しました。昨年度に引き続き、養楽荘の洗濯物の仕上がり品のたたみ・仕分け作業と並行して、内職作業を行いました。

また、新たにゲオビジネスサポートより、レンタル DVD ケース磨き等の作業も受注を開始しました。

(3) 利用者工賃の状況

新たにはるひ荘、ポリテクセンター中部からの洗濯物の受注を始めたこと等により、収益向上が出来、また、養和荘利用者衣類洗濯分の洗剤・光熱費等経費がかかっている分、経費の削減にも繋がっており、利用者工賃の向上にもつながりました。

年度	総収入額	経費総額	工賃総支払額	工賃支払延利用者数	月額平均工賃
29 年度	9,434,521 円	3,655,220 円	5,025,301 円	357 名	14,076 円
28 年度	8,545,076 円	3,939,663 円	4,369,127 円	363 名	12,036 円
対前年比	110.40%	92.78%	115.01%	98.34%	116.94%

3. 共通事項

(1) 個別支援計画

計画担当者3名で計画内容を見直し、適切なサービスを提供しました。また、保護者・利用者のニーズを聴き取り、作業班の再編成も一部実施しました。

(2) 健康管理

緊急対応確認シートを見直すと共に、利用者健康診断・インフルエンザ予防接種を実施しました。また、看護師による体重測定等を通し、健康への意識付けを図りました。

今年度は1月～2月にかけて、インフルエンザA型に1名、B型に3名の計4名が罹患しましたが、大きな混乱には至りませんでした。

(3) 給食

キッチン高森に委託し、日々の食事提供を行っています。利用者の誕生日に提供する「希望メニュー・誕生日デザート」の提供を実施すると共に、利用者の意見を伝え、美味しい食事の提供に努めました。

(4) 行事

保護者会の協力(★印)の元、以下の行事を実施しました。

4月7日	お花見	野点(事業所内)
5月26日	★バーベキュー・流し素麺	昼食を兼ねて実施(事業所内)
9月18日	きずなコンサート	東部市民センターにて後援会主催のコンサート
10月12日	★社会見学(生活介護班) (就労B1班)	名古屋市港防災センター(名古屋市) 名古屋港水族館(名古屋市)
10月19日	★社会見学(就労B2班)	名古屋市港防災センター(名古屋市)
10月26日	★社会見学(就労B3班)	名古屋市港防災センター(名古屋市)
11月2日	芋掘り	畑で実施(事業所内)
12月25日	★クリスマス会	昼食会・演芸会(事業所内)
1月12日	★餅つき大会	昼食を兼ねて実施(事業所内)
2月2日	節分会	豆まき等(事業所内)
3月2日	桃の節句	デザート会食(事業所内)
3月23日	★慰労会	一年の振り返りを兼ね昼食会を開催(事業所内)

(5) 環境整備

8月3日の利用者外出に合わせ、専門業者による殺虫対策を実施しました。

(6) 防災・防犯

毎月避難訓練を実施し、平均5分30秒(昨年度平均5分20秒)で避難を終えることが出来ました。また、今年度は社会見学にて、名古屋市港防災センターに出掛け、災害に関する職員・利用者の意識向上にも努めました。昨年同様に職員に対する防災関連のミニテストも実施しました。その他、総合防災訓練時にはわかば単独での炊き出し訓練や非常食の運び出し訓練等も実施し、非常災害への備えと確認も行いました。

防犯については、部外者が自由に出入りすることが見受けられた為、御用のある方は必ず事務所にお声掛けいただくよう、玄関先に注意喚起の張り紙を行うことで対応し、改善出来ました。

事業報告附属明細書（障害福祉サービス事業所 さいおワークス）

西尾町と坂下町の2事業所において、さいおワークスの事業を実施いたしました。

西尾では、就労継続支援B型事業（定員20名）、土・日曜日の地域活動支援センター事業（定員13名）を実施しました。

坂下では、就労移行支援事業（定員8名）、障害者委託訓練支援事業を実施しました。事業実績につきましては、以下のとおりです。

1. 利用者の状況

（1）就労移行支援事業及び就労継続支援B型事業

利用状況は以下のとおりです。

	定員	開所日数	年度	利用状況		
				延利用者数	利用率	1日平均利用者数
就労移行	8名	256日	29年度	1,211名	59.13%	4.73名
	8名	257日	28年度	1,388名	62.79%	5.40名
			前年度比	87.24%		
就労継続B型	20名	256日	29年度	5,028名	98.20%	19.64名
	20名	257日	28年度	4,446名	86.49%	17.29名
			前年度比	113.09%		

入退所状況は以下のとおりです。

	利用開始		利用終了	
	人数	備考	人数	備考
就労移行	2名	在宅より	5名	一般就労へ
	4名	委託訓練より	1名	就労継続A型へ
就労継続B型	1名	はるひ荘より	1名	死亡

就労移行は6名の新規利用者がありましたが、6名の一般就労やA型への移行により延利用者数は微減となりました。

就労継続B型は1年間通して利用契約者が22名在籍し、延利用者数の増加となりました。

（2）地域活動支援センター事業

利用状況は以下のとおりです。

定員	開所日数	年度	利用状況		
			延利用者数	利用率	1日平均利用者数
13名	102日	29年度	944名	71.19%	9.25名
13名	102日	28年度	925名	69.75%	9.06名
		前年度比	102.05%		

（3）障害者委託訓練事業

利用状況は以下のとおりです。

定員 (各コース)	開所日数	年度	利用状況		
			延利用者数	利用率	1コース平均利用者数
6名	173日	29年度	16名	88.88%	5.33名

4名	213日	28年度	21名	87.50%	3.50名
		前年度比	76.19%		

1コースの定員6名、58日間、年間4コースの予定が、最終の1コースは県予算の都合にて中止となり年間3コースの実施となりました。

委託訓練後の進路状況は以下のとおりです。

一般就労	就労移行	就労継続支援B型	在宅
6名	4名	1名	5名

2. 作業収入・工賃の状況は以下のとおりです。【就労継続B型】

年度	総収入額	総経費額	工賃総支給額	延利用者数	平均工賃月額
29年度	2,268,854円	233,263円	2,035,591円	254名	8,014円
28年度	1,396,606円	191,788円	1,204,818円	230名	5,238円
前年度比	162.45%	121.62%	168.95%	110.43%	152.99%

新規受注作業と結束機の導入、新規施設外就労先の確保にて総収入額が増加し、平均工賃月額が増加しました。

3. 支援体制

利用者個々のニーズを基にした個別支援計画に沿って、就労移行支援では一般就労及び就労定着を目指して、事業所内での訓練や職場体験・実習、職場定着支援を行い、就労継続支援B型事業では施設内での受注作業や施設外就労を通し、働く喜びや達成感が得られるよう支援しました。

委託訓練は一般就労、地域活動支援センターは余暇支援、それぞれの目的に沿ってサービスを提供しました。

具体的な内容については以下のとおりです。

(1) 日中活動、訓練

就労移行支援	事業所内での訓練	事務系作業（パソコン作業、作業日報、物品請求書、数値チェック、ラベル作成）、製造及びサービスに関する作業（バックヤード作業）、協働作業（物流作業、封入作業）、JST（職場対人技能トレーニング）、コミュニケーション力向上訓練等に取り組みました。 ハローワークや企業説明会での求職活動に付き添い、履歴書、職務経歴書の作成や模擬面接を行いました。
	職場体験、実習	一般就労やA型事業所の利用に向けて、事前の見学や打合せを重ねてから体験や実習に臨みました。
	職場定着	一般就労した方については、就労先へ訪問して本人や企業の担当者から聞き取りを行い調整・助言をしました。また、家族からの相談にも対応しました。
就労継続B型	受託作業	協力会社6社より作業を受託し、毛染め用品のセット、値札シール貼り、梱包、ビニールロープの樹脂リングの取付け、気泡緩衝材梱包作業等を中心に取り組みました。
	みたらし製造販売	養和荘保護者会、なかぎりげんきまつり、コロニー祭、養和荘ふれあいまつり、福祉のつどいにて行いました。
	求職活動	就労希望者はいませんでしたので、ハローワークでの求職活動への付添いは実施しませんでした。
	施設外就労	ゲオ店舗清掃業務を月に7回、利用者3名と支援員1名のチームで行いました。

委託訓練	個別作業 協働作業	数値や文章の入力や修正のパソコン作業や事務作業、ピッキングやドライバーを使用しての組立、器具を使つての値付け等の項目や注文書の作成等を行いました。
	タイム トライアル	作業量を一定に保つことを目指して、定期的に行いました。
	就労に 向けて	履歴書や職務経歴書の書き方や模擬面接、職場内の対人関係についての学習を行い、就労に結びついています。
地域 活 動	工作、運動 余暇	新聞等の身近にあるものを使った工作、カレンダー作り、音楽に合わせてのストレッチを実施しました。また、ドライブ、DVD鑑賞、散歩、初詣等の余暇支援を行いました。
	調理実習	買物に出かけ食材を購入して、昼食やおやつ作りを行いました。
	公共施設 利用	東部市民センターの図書館へ出掛けて読書をしました。

(2) 主な行事等

8月 2日	招待行事	洞戸観光やな
7月 17日	バーベキュー	さいおワークス
9月 18日	きずなコンサート	東部市民センター
11月 3日	お茶会	さいおワークス
12月 25日	クリスマス会	さいおワークス
1月 8日	新年会（もちつき）	さいおワークス
3月 23日	社会見学	森永乳業中京工場

(3) 健康管理

5月 11日	健康診断
11月 21日	インフルエンザ予防接種

毎月1回の血圧測定・体重測定の実施、手洗い、うがいを励行し必要に応じてマスクを着用し感染症の予防に努めました。インフルエンザは、B型に利用者1名が罹患しました。

(4) 給食

就労継続支援B型では、安心できる食材を使用した栄養バランスの良い「キッチン高森」のクックチル方式の食事を提供しました。

(5) 送迎

家庭と事業所、拠点間の送迎をしました。送迎中の事故はありませんでした。

5. 防災防犯

火災、地震の災害が発生した場合に備え、利用者の安全確保を第一に考えて行動ができるように、避難誘導訓練等を次のとおり実施しました。また、防犯マニュアルを策定し不審者の侵入に対する対応を職員に周知徹底しました。

月 日	訓 練 内 容
9月 1日	日中想定地震火災避難誘導訓練
3月 28日	風水害想定避難訓練
3月 17日・18日	地域活動支援センター：火災避難誘導訓練

事業報告附属報告書（障害福祉サービス事業所 みずほ）

平成 28 年に開所し、2 年目となりました。定員 20 名の生活介護事業所として事業を継続しております。事業実績につきましては、以下のとおりです。

1. 利用者状況

(1) 利用実績

定員	開所日数	年度	利用状況		
			延利用者数	利用率	1日の平均利用者数
20名	256日	平成29年度	3,845名	75.10%	15.02名
20名	257日	平成28年度	3,382名	67.22%	13.15名
		前年度比	113.69%		

前年度を上回る結果となりましたが、施設入所に伴い利用終了されるケースや、病気の悪化による長期に及ぶ欠席や入院があった事から、上記のような実績に留まりました。

(2) 利用開始・終了

利用開始		利用終了	
人数	備考	人数	備考
3名	特別支援学校卒業後の進路（2名） 他事業所から（1名）	4名	病気の悪化（1名） 施設入所（3名）

2. 事業内容

(1) 支援内容

ア 個別支援計画

6か月ごとに、利用者・家族の意見・要望を聞き取りながら、支援内容の見直しを行いました。

イ 日中活動の内容

活動内容は下記のとおりです。様々な活動を通して他者と交流し、やりがいや楽しみを共有できるよう支援しました。

- (ア) 歩行（市内の公園等、身体機能に合わせた距離の屋外歩行）
- (イ) 運動（ラジオ体操、ストレッチ体操、キャッチボール等）
- (ウ) 生産活動（毛染め用の手袋・櫛などをセットする軽作業）

	28年度	29年度	前年度比
作業収入	227,945円	261,000円	114.50%
工賃支給者（延べ）	181人	222人	122.65%
平均工賃（月）	1259.36円	1175.68円	93.35%

(エ) 音楽（カラオケ、楽器演奏等）

(オ) 創作活動（絵画、工作等）

(カ) レクリエーション（各種ゲーム、ドライブ、おやつ作り等）

(キ) 社会参加（近隣公園の清掃、図書館の利用等）

午前は主に生産活動に取り組み、午後は運動・音楽などの活動でリフレッシュする内容になっています。内職業者の事情により作業が減った事もあり利用者個々の工賃額はやや減少していますが、利用者の楽しみやリフレッシュの機会が増えています。

ウ 健康管理

利用者個々の情報を緊急対応確認シートで把握すると共に、日常的な体調の変化については送迎時に保護者等と情報共有しました。インフルエンザ罹患者はいませんでした。健康診断等は、下記のように行いました。

毎月第1水曜日	体重・血圧測定	みずほ看護師
5月10日	利用者健康診断	名古屋公衆医学研究所
11月15日	インフルエンザ予防接種	勝川医院の往診
5～6月（前期） 11～12月（後期）	歯科検診	養和荘歯科検診室

(2) 年間行事

施設内や近隣の公共施設にて、誕生会や季節を感じられる行事を行いました。外出等は下記のように行いました。

7月5日	行楽	ラグーナフェスティバルマーケットで昼食を摂り、竹島水族館に出かける。
9月18日	きずなコンサート	東部市民センターで開催された後援会主催のコンサートに参加する。
10月25日	みずほの集い	福祉の里にて、利用者・保護者・職員で会食し交流を深める。
3月	グループ外出	ボーリング・映画・カラオケ・動物園の、4グループに分かれて出かける。

3. その他のサービス内容

(1) 給食

宅配の食材により、事業所内で調理して食事提供をしました。個々の食べやすい形態や嗜好などに可能な範囲で対応しました。

(2) 送迎

車両3台で、3ルートを送迎を実施しました。送迎時に家庭との情報交換を行いました。短期入所利用時は、宿泊先への送迎も行いました。

(3) 防災

下記のように訓練を行いました。

6月16日	避難訓練（火災想定）	緊急避難場所（天王公園）まで避難
9月1日	避難訓練（地震想定）	緊急避難場所（天王公園）まで避難
2月1日	災害用伝言ダイヤル 体験利用	災害時の保護者との連絡方法の訓練・確認

(4) 防犯

玄関1か所に防犯カメラを設置しました。問題となるような事はありませんでした。

事業報告附属明細書（障害者支援施設 養楽荘）

施設入所支援事業（定員 40 名）、生活介護事業（定員 40 名）及び短期入所事業（定員女性 5 名）のサービス提供をしました。落ち着いた生活・充実した生活を送っていただけるように支援しました。また、地域交流の一環として学生実習の受け入れやイベントを行いました。

事業実績につきましては、以下のとおりです。

1. 利用者状況

保護者が高齢の方もおり、定期帰省の期間中も半数以上の方は養楽荘で生活されています。短期入所については、はるひ荘の開所時に施設入所された方も多く、週末の利用が中心になってきています。

	定員	年度	開所日数	延利用者	利用率	1日平均利用者数
生活介護	40名	29年度	269日	10,715名	99.58%	39.83名
		28年度	224日	8,836名	98.61%	39.44名
施設入所	40名	29年度	365日	14,221名	97.40%	38.96名
		28年度	304日	11,770名	96.79%	38.71名
短期入所	5名	29年度	365日	870名	47.67%	2.38名
		28年度	304日	899名	59.14%	2.95名

* 28年度は6月開所のため10か月での計算になります。

2. 利用者の入退所状況

月 日	入 所		退 所	
	人数	備 考	人数	備 考
6月 30日			6名	はるひ荘へ
7月 1日	6名	在宅から		
12月 31日			1名	はるひ荘へ
1月 1日	1名	はるひ荘から		

3. 利用者支援

(1) 日中活動

午前中は、音楽療法 山歩行 理学療法とスノーズレンの4つの班に分かれて活動を行っていました。また、山歩行以外の班については、各活動の前30分を荘内歩行の時間としてとりいれ運動をしています。午後は以下のとおりになります。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
男性	ストレッチ・サーキット	フリー	スノーズレン	芸術	ストレッチ
女性	芸術		園芸・工作	スノーズレン	ストレッチ・サーキット

*余暇時間に自立支援課題（絵合わせ・色合わせ・パズル・キャップ閉等）を行っています。

(2) 行事

5月10日	春の行楽	南知多ビーチランド
7月7日	七夕会（流しそうめん）	養楽荘（訓練作業室）
9月18日	きずなコンサート	東部市民センター
10月19日	秋の行楽	トヨタ産業技術記念館
11月30日	焼き芋パーティー	養楽荘（訓練作業室）
12月22日	クリスマス会	養楽荘（訓練作業室）
12月26日	餅つき	養楽荘（訓練作業室）
1月19日	新年会	養楽荘（訓練作業室）
2月2日	節分	養楽荘（訓練作業室）
2月15日	バレンタイン	養楽荘（訓練作業室）
3月14日	ホワイトデー	養楽荘（訓練作業室）
3月29日	バーベキュー	養楽荘（訓練作業室）

*上記以外に、小グループでの外出・外食・招待行事にも出かけています。

4. 健康管理

入院となる利用者が4名あり、内3名が緊急手術となっています。平均年齢も高いことから、転倒による怪我や、体調の変化に注意が必要な状況です。インフルエンザ罹患者はありませんでした。

定期健診・予防接種

5月12日	健康診断	名古屋公衆医学研究所
11月17日	インフルエンザ予防接種	田島クリニック
11月2日	健康診断	名古屋公衆医学研究所

* 歯科検診は、8月～9月・2月の2回、養和荘歯科検診室にて実施

往診等

毎月1回	健康相談等	沖医師
	内科医による診察	田島クリニック
	精神科医による診察	あさひが丘ホスピタル

5. 給食

外部委託とし、隣接するキッチン高森からの食事を提供しました。管理栄養士を配置し、栄養面・嗜好・季節等を考慮した食事の提供に努めると共に、個々人の状況に合わせてカロリーの変更、食事形態の見直しを行ってきました。

6. 入浴

週に4日実施しています。利用者の介護度によって一般浴と機械浴に分かれて入浴をしています。機械浴は男性3名・女性1名は固定で他の利用者でもその日の状態によって機

械浴で入浴しています。

7. 環境整備

新しい建物ですが、利用者による器物破損が何度もあり、その都度業者を呼んでの修繕を行ってきました。開所当初に比べると件数は減ってきていますが、他の利用者の不便にならないように、今後も適宜修繕を行っていきます。また、清掃・整理整頓など日常的に出来ることについては実施してきました。

8. 学生実習

中学生 11 名（高森台・石尾台）・高蔵寺高校 2 名・中部大学 1 名・警察学校生 115 名の計 129 名の方の受け入れを行いました。職場体験や福祉実習と目的は違いますが、利用者と時間は短いものの、関わっていく中で何か感じてもらえたようです。

9. 防災・防犯

はるひ荘の開所に伴い、避難経路等の防災マニュアルの見直し、火災・地震・風水害を想定した避難訓練を実施しました。また、地域包括ケア団地モデル事業の地域防災フェスティバルを 10 月 14 日に実施し、地域の方と交流すると共に、防災についても考えるいい機会になりました。

訓練一覧

4 月 25 日	夜間火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練
5 月 23 日	夜間火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練
6 月 22 日	夜間火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練
7 月 24 日	日中火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練
8 月 21 日	夜間火災想定による避難訓練
8 月 22 日	夜間火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練
9 月 1 日	日中の地震から火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練 地震体験車、煙道体験・炊き出し訓練の実施・
10 月 23 日	日中火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練
11 月 20 日	夜間火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練
1 月 26 日	日中風水害想定による避難訓練・通報訓練

防犯については、28 年度末に防犯カメラ等のシステムを入れたことから、29 年度に取扱いの講習を職員に行いました。また、施錠時間、施錠確認の方法などマニュアルの見直しも行いました。

10. 地域交流

地域包括ケア団地モデル事業の一環として、地域防災フェスティバルを実施しました。天候がすぐれない中、地域住民の方や関係機関の協力を得て実施しました。ステージで高蔵寺中学吹奏楽部の演奏や国土交通省・自衛隊の災害派遣車両の展示・春日井市消防の体験コーナーなど地域の方たちの防災を通して交流の機会が持てました。

事業報告明細書（障害福祉サービス事業所 キッチン高森）

キッチン高森では就労継続支援 A 型事業所として厨房業務を行っており、平成 29 年度は隣接する障害者支援施設養楽荘及びはるひ荘(平成 29 年 7 月～)利用者、障害福祉サービス事業所わかば(平成 29 年 4 月～)及びさいおワークス利用者等への給食提供を行いました。

また、平成 29 年 8 月には定員を 10 名から 15 名に変更しました。

利用者が自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、雇用の機会を提供すると共に就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練等を実施しました。

事業実績につきましては、以下のとおりです。

1. 利用者状況

年 度	定 員	開所日数	利用状況		
			延べ利用者数	利用率	1 日平均利用者数
29 年度	15 名	365 日	3,478 名	63.52%	9.53 名
28 年度	10 名	308 日	2,064 名	67.01%	6.71 名
前年度比			168.50%		

*28 年度は 6 月開所のため 10 か月での計算になります。

・利用者の動向

利用開始		利用終了	
人 数	備 考	人 数	備 考
3 名	春日台特別支援学校より	2 名	就労継続支援 A 型事業所へ
1 名	一般就労より		

2. 作業内容、営業時間及びサービス提供時間の状況

作 業 内 容	利用者の適性に応じた作業内容とし、主調理を始め、盛付、配膳、下処理、洗浄作業等の業務を行います。
営 業 時 間	午前 6 時から午後 8 時まで
サービス提供時間	午前 6 時から午後 8 時まで(このうち最大 8 時間)

- (1) 朝食、昼食、夕食の 3 食を提供しているため、利用者の勤務時間はローテーションを組み実施しました。
- (2) エビ及びさばアレルギー食利用者には、代替食を提供すると共に、誤食がないよう確認作業を実施しました。

3. 給食等の提供状況

(1) 給食の提供

提 供 先	提供者区分	年間提供食数
養楽荘 (朝食・昼食・夕食)	施設入所者	43,625 食
	短期入所者	1,839 食
はるひ荘 (朝食・昼食・夕食) (平成 29 年 7 月～)	施設入所者	33,132 食
	短期入所者	2,569 食
さいおワークス(昼食)	通所利用者	5,328 食
わかば(昼食) (平成 29 年 4 月～)	通所利用者	9,309 食

合 計	95,802 食
養楽荘・はるひ荘・キッチン高森職員(スタッフ含む)	6,857 食

(2) おやつ提供

提 供 先	提供者区分	年間提供食数
養楽荘	施設入所者	1,833 食
はるひ荘	施設入所者	1,550 食

4. 利用者への支援

(1) 個別支援

利用者のニーズ等を基に策定した個別支援計画に沿い、利用者個々の状況に合った支援を実施しました。

(2) 健康管理

利用者の日々の健康状況等の確認を行い、変調がある場合には保護者と連携を行い対処しました。また、年1回の定期健康診断を実施し、利用者の健康管理に努めました。

(3) 衛生管理

衛生管理の徹底を図るため、利用者及び作業所内の衛生管理事業を次のとおり実施しました。

実施項目		実施状況
利 用 者	検便	毎月
	衛生講習会(外部)	7月14日、12月20日
	服装・身だしなみ・つめ・頭髮等の 衛生点検	毎日
	手洗い講習	毎月
作 業 所	衛生検査(外部)	6月30日、12月6日
	衛生検査(内部)	毎月
	厨房害虫駆除(外部)	毎月
	グリストラップ清掃(外部)年6回	6月6日、9月12日、11月21日、 12月19日、1月9日、3月6日
	グリストラップかご清掃(内部)	毎月

※ グリストラップ(油脂分離阻集器)ー水中の生ごみ・油脂などを直接下水道に流さないために、一時的にためておく設備で、そのまま放置しておくと、悪臭や害虫の発生、食中毒の温床となる。

(4) 通所支援

勤務時間等を考慮し、公共交通機関による通所が困難な利用者に対して、拠点(JR高蔵寺)と事業所間の送迎を実施しました。 延べ利用者数：1,571人

5. 行事

利用者の教養娯楽事業を次のとおり実施しました。

行事名	回数・実施日
誕生日会	11回(4月、5月、6月、8月、9月、10月、11月、12月、1月、2月、3月)
ハロウィン	10月26日
クリスマス会	12月25日
ひな祭り	3月2日

6. 防災・防犯

火災、地震の災害や犯罪等が発生した場合に備え、利用者の安全確保を第一に考えて行動等ができるように、ホイッスル、ヘルメット等を活用した避難誘導訓練等を次のとおり実施しました。

事業名	回数・実施日
防災・防犯訓練(消火、通報、避難誘導)	年8回(6月27日、7月24日、8月21日、9月1日、10月25日、11月28日、1月22日、3月27日)
非常食備蓄	非常食・飲料水を3日分

7. 施設実習

春日台特別支援学校高等部生徒を対象に、次のとおり施設実習をしました。

実施時期	学年	人数
平成29年6月19日(月)～6月30日(金)	3年生	2名
平成30年1月22日(月)～1月26日(金)	2年生	2名
平成30年1月29日(月)～2月2日(金)	2年生	1名

事業報告附属明細書（障害者支援施設 はるひ荘）

7月より施設入所支援事業（定員40名）、生活介護事業（定員40名）、短期介護事業（定員5名）でサービス提供を始めました。愛知県心身障害者コロニー再編計画で、コロニー利用者の地域移行先として整備しましたので、41名利用者（1名措置利用）のうちコロニー出身者28名（男性23名、女性5名）、在宅から13名で開所いたしました。

また、大きな特徴は、自閉傾向が強い強度行動障害といわれる人たちが71%おり、環境変化に大きく左右される方々ですので、早く新しい環境に慣れて、落ち着いた生活を送っていただけるように支援しました。

事業実績につきましては、以下のとおりです。

1. 利用者状況

数名の利用者を除いて帰省もほとんどなく、はるひ荘を中心とした生活の方が大半です。

また、年度途中から将来グループホームでの生活ができそうな方6名に日中、法人内通所施設に通っていただき、職住分離を確立しております。

短期入所事業につきましては、障害が重いがゆえに施設を利用しがたい方々にサービスを提供してきました。利用希望者が極めて多く、予約制で利用していただいております。ただし、緊急性が高い等の理由から優先的に利用していただいている方が4名います。

	定員	開所日数	延利用者	利用率	1日平均利用者数
生活介護	40名	202日	7,087名	87.71%	35.08名
施設入所	40名	274日	10,980名	100.18%	40.07名
短期入所	5名	244日	1,003名	82.21%	4.11名

2. 利用者の入退所状況

月 日	入 所		退 所	
	人数	備 考	人数	備 考
7月 1日	39名	はるひ台学園・養楽荘・在宅から		
7月 4日	2名	在宅から		
12月31日			1名	養楽荘へ（男性）
1月 1日	1名	養楽荘から（男性）		

3. 利用者支援

(1) 日中活動

内容と時間をわかりやすく、見通しのきくことを第一義として、利用者の特性、ニーズ等を勘案し、適宜見直しを加えつつ以下の内容で支援を行ってきました。

- 9：00～ 通所施設利用者通勤（送迎車両乗車）
 9：50～ 朝礼・ラジオ体操（全員）
 10：00～11：30 運動・ダイナミックリズム・自立支援課題・理学療法
 13：30～14：50 運動・ダイナミックリズム・自立支援課題・理学療法
 15：00～ スノーズレン（月・水・金曜日女性、火・木・土曜日男性）

(2) 行事

9月18日	きずなコンサート（8名参加）	東部市民センター
9月24日	野球観戦（招待行事）（1名）	ナゴヤドーム
10月1日	コロニー祭（6名）	愛知県心身障害者コロニー
10月14日	地域防災訓練	養楽荘、はるひ荘駐車場
11月5日	ふれあいまつり	養和荘グランド
11月15日	行楽（4名）	モリコロパーク
11月22日	行楽（4名）	花フェスタ記念公園
11月29日	行楽（4名）	リトルワールド
11月30日	行楽（10名）	アクア・トト岐阜
12月6日	行楽（5名）	リニア鉄道館
12月13日	行楽（5名）	名古屋港水族館
12月20日	行楽（4名）	落合公園・東谷山フルーツパーク
12月22日	クリスマス会	各ユニット共同生活室
2月6日	行楽（3名）	アクア・トト岐阜
2月16日	豆まき	各ユニット共同生活室

社会性を身に付ける訓練をあまり受けてこなかった方々ですので、今年度は少人数での取り組みにしました。

上記以外に、女性棟は利用者全員で外食に出かけています。

4. 健康管理

入院者3名、ケガでの縫合者2名、骨折1名、インフルエンザ罹患者1名でした。

定期健診・予防接種

11月8日	健康診断	名古屋公衆医学研究所
11月9日	インフルエンザ予防接種	田島クリニック

往診等

毎月1回	健康相談等	沖医師
	内科医による診察	田島クリニック
	精神科医による診察	あさひが丘ホスピタル
9月（1回）	歯科検診	川原歯科医（養和荘）
3月（1回）	歯科検診	川原歯科医（養和荘）

5. 給食

隣接する A 型作業所キッチン高森に委託し食事の提供を行いました。栄養士を配置し、栄養面、嗜好、季節感等を考慮した食事の提供に努めると共に、11 月よりさらに管理栄養士を配置し 1 月より栄養ケアマネジメントを取り入れ、個々人の身体状況に合わせてカロリーの変更、食事形態の見直しを行ってきました。

6. 入浴

心身のリフレッシュと清潔保持のため、毎日入浴を実施してきました。

7. 環境整備

9 月より専門の清掃業者を入れ、尿・便失禁の多い利用者の居室を中心に保清に努めました。

また、障害特性からくる器物破損についてもその都度業者を呼び修繕を実施してきました。

8. 防災・防犯

火災・地震・風水害を想定した避難訓練を、利用者の安全の確保、生命の確保を念頭に実施してきました。

また、神奈川での事件を受け、防犯に対しては、支援員への防犯用の笛の配付、防犯スプレー・防犯ブザーの配置、そして人感センサーを利用者玄関、非常口に計 7 個設置し対応しました。

訓練一覧

6 月 27 日	通報訓練・施設内消防設備及び消防器具の説明
7 月 24 日	日中火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練
8 月 21 日	夜間火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練
9 月 1 日	日中の地震から火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練
10 月 25 日	雨天につき中止
11 月 28 日	夜間火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練
1 月 22 日	日中風水害想定による避難訓練・通報訓練
2 月 27 日	緊急連絡網を使用した、連絡訓練
3 月 27 日	夜間火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練